

株式会社 日本カラープロセス
エコアクション 21 環境経営レポート

自 2023 年 8 月 1 日
至 2024 年 7 月 31 日
(当社事業年度 第 53 期)

目 次

取組の対象組織	2 ページ
環境経営方針	3 ページ
実施体制	4 ページ
環境経営目標／達成状況及びその評価結果	5・6 ページ
環境経営計画／実施状況及びその評価結果	7 ページ
環境関連法規等の取りまとめと遵守状況の結果	8 ページ
代表者による全体の取組状況の評価と見直し・指示の結果	9 ページ

レポート作成日：2024 年 9 月 27 日
作成者：事務局長（兼任） 大沼 毅司
環境管理責任者 大沼 毅司

取組の対象組織・活動

組織の概要

【事業所名及び代表者名】

株式会社 日本カラープロセス

代表取締役 丸山 友寛

【所在地】

本社 東京都墨田区八広 6 丁目 2 8 番 1 7 号

【事業規模】

設 立 1971 年 9 月 6 日

資 本 金 1,800 万円

社員数 53 名 (2024 年 7 月 31 日現在)

敷地面積 3,848.05 m²

床 面 積 3,437.77 m²

【事業内容】

紙器・ディスプレイ等の企画・設計・製版、印刷・加工、販促キャンペーン等の企画・運営

【環境管理推進事務局】

事務局長 大沼 毅司

T E L 03-3618-4556

F A X 03-3613-0215

U R L www.nihon-color.co.jp

【対象範囲】

全組織・全活動

環境経営方針

当社の経営理念である『高度な技術を駆使し、顧客が期待する高品質「版」と「印刷物」を提供し、社会貢献をします。』に基づき、顧客の品質要求事項を満たす為、及び、QMSの有効性の継続的な改善のために品質管理活動を継続して実施します。併せて、環境との共生・調和を心掛け、社員全員で環境負荷の低減・抑制を継続的に努めます。

経営に係る課題とチャンスとを踏まえながら、当社の事業活動（製版印刷加工）に於いて、省資源、廃棄物削減に努め、再利用し、再資源化する3Rを通じた資源循環による循環型社会、地球生態系との共生、持続可能な経済社会へと変革すべく、以下の項目に注視しながら、重点分野を明確にし、積極的に、環境経営を実行します。

- ① 環境経営システムを継続的に改善し、PDCAサイクルを遂行します。
- ② 環境関連法規・同意したその他の要求事項を遵守し、環境関連文書及び記録の作成・管理、製造工程から排出される金属くず、廃プラスチック類、廃油（インキ残肉）、廃油（洗浄油）、廃棄フィルム、廃酸、廃アルカリ等の産業廃棄物、紙くず、段ボール、雑誌等一般廃棄物の削減に取り組みます。
 - 使用電力量・化石燃料の低減・抑制による二酸化炭素（CO₂）の削減。
 - 資源使用量は、無駄な使用を控え、節減します。（フィルム、板紙、PS版、インキ、溶剤、水、洗浄剤、コピー紙）
 - 化学物質の把握・使用量の削減及び管理の徹底。
 - 廃棄物の排出量を削減・分別の徹底・再資源化を推進します。（板紙、ダンボール、廃油、PS版、廃プラスチック）（紙、食品トレイ、包装紙）
- ③ 環境に配慮した資材を使用し、グリーン購入を推進します。
- ④ 各部門の環境経営活動は、集計及び記録に残し、定期的に見直し、継続的改善を図ります。
- ⑤ 環境経営方針を全社員に周知徹底させ、社員全員で取り組みます。

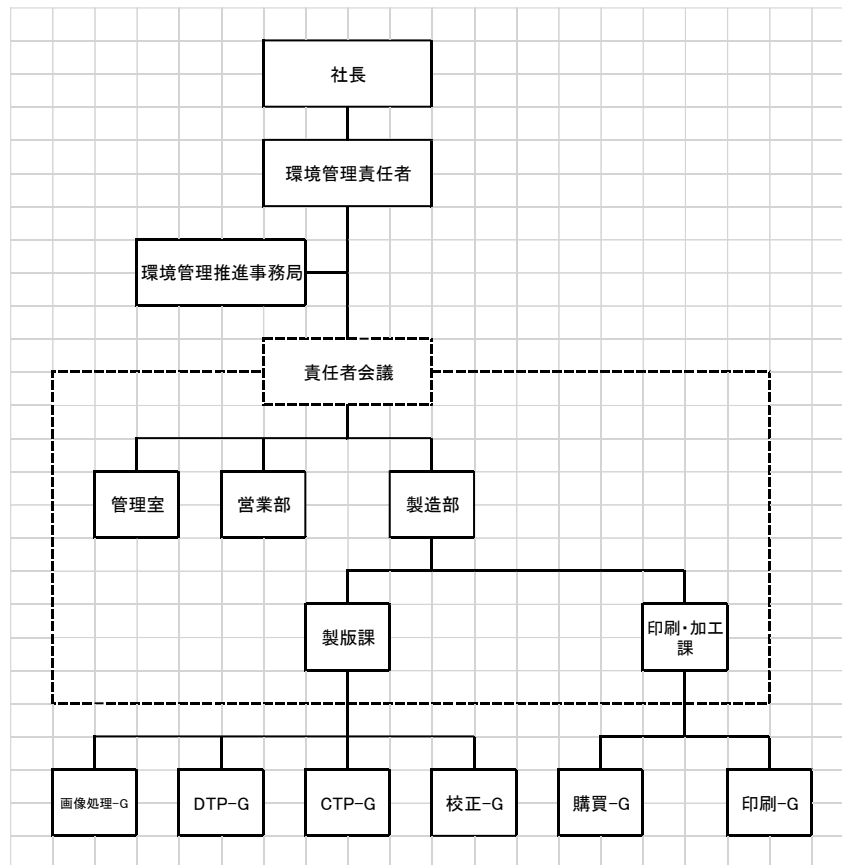
2014年8月1日

改定 2019年8月1日

株式会社 日本カラープロセス
代表取締役 丸山 友寛

実施体制

作成日 2024年9月16日



【社長】

代表者として環境経営全般に関して責任と権限を持つ。環境経営方針を策定し、従業員に周知する。環境経営システムの実施及び管理に必要な資源（人・物・金）への投資の承認、およびその実施体制を構築し全社員へ周知する。EA21 全体の取組状況に関し、評価・見直しを実施し、経営上の課題とチャンスを確認にする。環境管理責任者を任命する。

【環境管理責任者】

環境経営システムの構築・実施、管理の運用、環境関連法規等のとりまとめ、遵守状況チェック、環境経営目標・環境経営計画立案・実施、社長への報告。

【環境管理推進事務局】

環境負荷、取組のチェック、責任者会議の開催、環境レポート作成・公開。環境管理責任者の補佐、環境経営目標に定めた測定項目の実績集計。

【部署責任者】

自部署の環境経営計画の実施、達成状況の把握及び部署内周知、部署内会議開催、責任者会議への参加。

【責任者会議】

部門責任者を出席者とし、半期ごとに開催。自部署の環境経営目標の達成状況及び環境経営計画の実施状況の報告。

【全従業員】

環境経営方針を理解し、環境経営計画に則り、自主的、積極的に環境経営に参加する。

環境経営目標／環境経営目標の達成状況及びその評価結果

当社の事業活動における環境負荷は、プリプレス部門（DTP・画像処理・CTP）、プリント部門（校正・印刷）の電気使用量、損紙廃棄、廃油排出、フィルム廃棄、現像液、定着液排出、廃油排出、営業部門、購買部門のガソリン消費、営業部門、購買部門、管理部門の電気使用量等が主体である。これらの環境負荷の抑制、低減、削減策として、測定項目毎に目標値を設定する。53期から55期の3カ年は、2022年度（52期）を基準として、各年1%削減を目標値とする。達成度は、「実績値÷目標値」にて算出する。今期の未達成項目の理由は、表下に記載する。

測定項目	単位	基準値	53期			
		52期実績	目標値	目標比		実績値
1 エネルギー消費CO ₂ 排出削減	kg-CO ₂	477,476.12	472,701	118%	×	556,077.20
電気使用量	kWh	848,431.00	839,947	103%	△	868,295.00
ガソリン使用量	ℓ	7,634.93	7,559	102%	△	7,702.15
都市ガス使用量	m ³	263.00	260	105%	×	274.00
2 廃棄物削減						
金属くず	t	2.305	2.282	133%	×	3.029
廃プラスチック類	t	0.808	0.800	137%	×	1.096
廃油/インキ残肉	t	0.589	0.583	243%	×	1.419
廃油/洗浄油	t	2.527	2.502	115%	×	2.888
廃棄フィルム	t	0.00	0.00	100%	○	0.00
廃酸	t	0.00	0.00	100%	○	0.00
廃アルカリ	t	0.961	0.951	106%	×	1.006
紙くず	t	204.580	202.534	88%	○	178.070
産業廃棄物	計	211.77	218.34	86%	○	187.508
段ボール・雑誌	t	0.00	0.00	100%	○	0.000
一般廃棄物	t	1.846	1.83	93%	○	1.705
一般廃棄物	計	1.846	1.83	93%	○	1.705
3 水使用量削減						
水使用量	m ³	817.000	808.83	114%	×	926.000
4 商品への環境配慮						
原材料仕入費用	百万円	175	173.3	104%	△	179.9
5 化学物質不使用						
ジクロロメタン	t	0.00	0.00	100%	○	0.000
6 環境配慮製品の購入推進						
環境配慮事務用品購入額割合	%	39.09	39.4809	117%	○	46.18
※達成度の判定基準						
測定項目①～⑤：100%以下で目標達成：○ / 101～105%未達成：△ / 105%以上未達成：×						
測定項目⑥：100%以上で目標達成：○ / 99～95%未達成：△ / 95%以下未達成：×						
※電力使用量のCO ₂ 排出係数は、	0.512	（北陸電力）→2023年3月まで使用				
	0.622	（バンブーパワートレーディング）※2021年度調整後				
	0.442	（東京ガス）※2021年度調整後				

未達成理由

○エネルギー消費 CO₂排出

⇒電気使用量の大半を占めている印刷工場の電力購入先を、北陸電力（CO₂排出係数 0.512）からバンブーパワートレーディング（CO₂排出係数 0.622）に変更したことが大きな原因となっている。

○電気使用量

⇒印刷の受注が前年より増え、印刷機の電気使用量が受注量に比例して増加した。

52 期 量産印刷台数 1968 台 印刷通し枚数 7,349,320 枚

53 期 量産印刷台数 2034 台 印刷通し枚数 9,401,833 枚

○ガソリン使用量

⇒前期より売上げが 1 割ほど回復しており、得意先または協力会社への訪問や運搬が増えた。 52 期売上げ 93,829 万 53 期売上げ 102,258 万

○都市ガス使用量

⇒前期同様に、校正室内にシンクを移設したことでお湯の使用頻度が増えている。

○金属くず・廃プラスチック類

⇒印刷作業の受注増加に伴うインキ空き缶の増加、品質保証のためブランケット交換頻度の増加。

○廃油（廃インキ・洗浄油）

⇒印刷作業の受注増加に伴うインキ使用量及び、洗浄作業の増加。また、量産印刷で使用する特色インキが前期に比べ 384 色増えており、作業途中でインキが不足した場合の品質低下を防ぐため、原色と比べて若干多めに使用していることも一因になっていると思われる。

52 期 量産印刷：原色 4051 色、特色 2884 色 本機校正：原色 3677 色、特色 1023 色

53 期 量産印刷：原色 4042 色、特色 3268 色 本機校正：原色 3217 色、特色 1065 色

○廃アルカリ

⇒廃液を回収するタイミングのズレによる結果。

○水使用量

⇒印刷作業の受注増加に伴う印刷機の水使用量増加。

53 期以降の環境経営目標（EA21-5-51）

52 期を基準として、3 カ年で、各 1%削減を目標値とする。詳細は、下記のとおり。

測定項目	単位	基準値	目標値		
		52期実績	㊦53期	㊦54期	㊦55期
1 エネルギー消費CO ₂ 排出削減	kg CO ₂	477,476.12	472,701	467,927	463,152
電気使用量	kWh	848,431.00	839,947	831,462	822,978
ガソリン使用量	ℓ	7,634.93	7,559	7,482	7,406
都市ガス使用量	m ³	263.00	260	258	255
2 廃棄物削減					
金属くず	t	2.305	2.28	2.26	2.24
廃プラスチック類	t	0.808	0.80	0.79	0.78
廃油/inker残肉	t	0.589	0.58	0.58	0.57
廃油/洗浄油	t	2.527	2.50	2.48	2.45
廃棄フィルム	t	0.00	0.00	0.00	0.00
廃酸	t	0.00	0.00	0.00	0.00
廃アルカリ	t	0.961	0.95	0.94	0.93
紙くず	t	204.6	202.53	200.49	198.44
産業廃棄物	計	211.77	218.34	216.14	213.93
段ボール・雑誌	t	0.00	0.00	0.00	0.00
一般廃棄物	t	1.846	1.83	1.81	1.79
一般廃棄物	計	1.846	1.83	1.81	1.79
3 水使用量削減					
水使用量	m ³	817.000	808.83	800.66	792.49
4 商品への環境配慮					
原材料仕入費用	百万円	175	173.3	171.5	169.8
5 化学物質不使用					
ジクロロメタン	t	0.00	0.00	0.00	0.00
6 環境配慮製品の購入推進					
環境配慮事務用品購入額割合	%	39.09	39.4809	39.87	40.26

環境経営計画／環境経営計画の実施状況及びその評価結果と次年度の環境経営計画

測定項目	①二酸化炭素排出削減	②廃棄物削減	③水使用量削減	④商品への環境配慮	⑤化学物質使用削減	⑥環境配慮製品の購入
達成度	△	×	×	△	○	○
管理室 営業部 購買課	①アイドリングストップ・エコドライブ実施(走行距離、ガソリン消費測定、ドライブレコーダ活用) ②車両買替時は、ハイブリッド車を選択 ③パソコン電源 ON/OFF 励行 ④外出時の冷暖房電源 OFF ⑤冷暖房設定温度管理(COOLBIZ、WARMBIZ)	①不要ゴミ持込厳禁 ②必要最低限の指示書コピー作成 ③裏紙の再利用	①水道蛇口のこまめな操作励行 ②節水コマの設置	正確な作業指示書の作成	該当せず	事務用品等は、環境配慮製品を優先して購入
DTP-G 画像処理-G	①パソコン電源 ON/OFF 励行 ②冷暖房設定温度管理(25℃)	フィルム・J/P 用紙の再出力を減らす	同上	指示書通りの作業の徹底	該当せず	同上
CTP-G	①パソコン電源 ON/OFF 励行 ②冷暖房設定温度管理(25℃) ③機械の稼動時間外電源 OFF	①P/S 版ヤレ削減 ②現像液の管理徹底	同上	同上	該当せず	同上
校正-G	①冷暖房設定温度管理(22～24℃) ②UV 機の電源 ON/OFF 管理 ③溶剤を密閉し気化を防ぐ	①色出紙を 7 枚にする ②台紙の再利用徹底 ③ウエスの再利用徹底 ④ゴミの分別徹底 ⑤残紙を原稿袋に再利用	同上	同上	①SDS シートの管理徹底 ②有機溶剤の使用禁止	同上
印刷-G	①UV 機の電源 ON/OFF 管理 ②冷房設定温度管理(26℃) 暖房設定温度管理(24℃) [工場内温度 25℃±3℃ 湿度 50%±10%] ③溶剤は密閉し気化を防ぐ	①インキ残肉再利用 ②本紙の再利用 ③ゴミの分別徹底	同上	同上	同上	同上

実施状況と評価（半期）	仕事受注量が前年より回復しており、印刷機の稼働率アップにより、電力の使用量も比例して増えている。同様に、得意先・協力会社への訪問も増え、ガソリンの使用量も増えている。売上げ増加の要因ととらえ前向きに検討し、無駄の排除に努める。	印刷作業の受注増加に比例して、インキ空き缶・ブランケット交換・廃インキ・洗浄油廃棄が増加している。左記同様に売上げ増加の要因ととらえ前向きに検討し、無駄の排除に努める。	印刷作業の受注増加に比例して、印刷機の水使用量が増えている。普段の生活用水には大きな変化はない。	受注増加に伴う資材の購入量は増えているが、再作業による無駄は抑えられている。	目標達成	目標達成
実施状況と評価（年間）	年間を通して売上げ金額が1割程度回復し、印刷作業の増加に伴ってエネルギー使用量・産業廃棄物・水使用量・原材料購入量がすべて比例して増加した。但し、都市ガスの使用量増加については製造にかかわるものではなく清掃や普段の生活利用に限られるため、冬季以外の使用を制限するなど対応が必要。今後もコロナ禍明けによる近年の情勢変化と、気候変動による気温の上昇によって影響する室内の温度管理などにも注視していく必要がある。	左記同様。引き続き無駄の排除を心掛けて行動する。	左記同様。引き続き無駄の排除を心掛けて行動する。	左記同様。引き続き無駄の排除を心掛けて行動する。	目標達成	目標達成
次年度の環境経営計画	得意先の要望・期待に応えることを前提とし、前期に引き続き52期を基準とした目標を設定する。行動内容は継続	来期も引き続き、棚卸精度向上と生産性及び品質向上に努める。行動内容は継続	行動内容継続	行動内容継続	行動内容継続	行動内容継続

環境関連法規等の取りまとめと遵守状況の結果

当社は、以下の環境関連法規に該当するが、適用処置を実施しており、違反は一切ありません。また関係当局からの注意、近隣からの訴訟・苦情は過去一切ありません。

法律／条令	該当条項	対象	該当部署	対応方法	順守確認
廃棄物処理法	1. 2. 3. 5. 7. 12	廃酸／廃アルカリ	CTPグループ	①社内循環回収・業者委託回収	○
		廃油／廃インキ	校正グループ・印刷グループ	②保管場所指定・業者委託回収・マニフェスト管理	○
		廃プラスチック／紙くず	印刷グループ	③マニフェスト管理	○
騒音規制法	3. 4. 5	オフセット印刷機	印刷グループ	設置時検査許可(墨田区)	○
				昼間60～65dB／夜間50～55dB以下で作業実施	○
振動規制法	2. 3. 5.	オフセット印刷機	印刷グループ	設置時検査許可(墨田区)	○
				昼間65～70dB／夜間60～65dB以下で作業実施	○
消防法	8. 9.	灯油	校正グループ	代替品に切り替え、現在取り扱い無し	○
自動車リサイクル法	全	社用車、トラック	営業部・購買グループ	廃車時指定業者に有料委託	○
温暖化対策推進法	5. 23. 36.	焼却廃棄物、ガソリン等	全社	無駄な使用、無駄な廃棄物の削減	○
労働安全衛生法	全	従業員	全社	安全衛生委員会管理による健康診断、ストレスチェック、作業環境改善、危険防止措置等	○
家電リサイクル法	全	テレビ／冷蔵庫／エアコン	全社	廃棄時指定業者に有料委託	○
墨田区廃棄物の減量及び処理に関する条例	全	一般廃棄物	全社	分別の実施	○
東京都環境確保条例	全	社用車、トラック	営業部・購買グループ	アイドリングストップの励行	○
グリーン購入法	1. 5.	各資材	全社	出来る限り環境に配慮した資材の調達	○
フロン排出抑制法	全	室外機、熱交換器	全社	四半期に1度以上、目視による点検実施・管理	○
下水道法	1. 2. 10	オフセット印刷機	印刷グループ	排水設備の点検	○

最新法規確認日 2024 年 9 月 16 日

法規遵守確認日 2024 年 9 月 16 日

確認者 大沼 毅司

代表者による全体の取組状況の評価と見直し・指示の結果

見直しに必要な情報		
項目	報告書類	報告内容
環境経営目標の達成状況	EA21-5/12-53 本レポートP5資料	11件の測定項目に未達成があったが、受注量の回復・増加によるものが原因のため、これまで以上の作業効率の改善を期待して前向きに捉えたい。無駄の排除について常に意識し努めてもらいたい。
環境経営計画の実施及び運用結果	EA21-6/12-53 本レポートP7資料	未達成項目の改善策とその他継続内容を確認した。
環境経営システム関連法規等の遵守状況	EA21-4/13-53 本レポートP8資料	2024年9月26日に確認した。 すべて遵守している。
外部からの環境に関する苦情や要望等	EA21-9-53	2023年8月1日～2024年7月31日の期間、 苦情はなかった。
代表者による見直し		
見直し対象の要素	変更の必要性の有無	コメント
環境経営方針	有 ・ 無	特になし。
環境経営目標	有 ・ 無	特になし。
環境経営計画	有 ・ 無	業務改善を常に意識し、環境負荷を抑制できる行動計画の提案を求める。
環境経営システム (実施体制)	有 ・ 無	引き続き、品質維持向上のためのISO9001と、環境経営システムとしてのエコアクション21との相乗効果で、PDCAサイクルを維持し、顧客満足へ繋げる。
評価結果及び指示		コロナ禍から1年以上経過し以前の生活に戻ったが、金利や国外の情勢の影響による物価・エネルギー価格の変動で、製造コストや設備維持費用など不安定な状況が続いている。また、気候変動の影響で気温が年々上昇しており、社員の体調管理にも気配りが必要である。得意先からの期待に応え業績を回復することを念頭に、無駄の排除と効率アップを求め継続することで社会貢献し、「ピンチをチャンス」に変えられるよう全社一丸となって行動していきたい。